

山全体がツツジに覆われる名山

徳仙丈山

とくせんじょうさん

圧倒的なスケール感で咲き誇るツツジは、日本屈指の名所となっています。ツツジの回廊をくぐり抜け、山頂から眺めを見渡せば、遠くリアス式海岸の美しい景観と、眼下の燃え立つようなツツジとのコントラストが織りなす風景を満喫できます。

ビューポイント 1
第一展望台からの眺望

深紅に染まる名山、心も体も軽やかに50万本ものツツジに魅了される

宮城県沿岸北部、気仙沼市の徳仙丈山は標高711m。日本屈指のツツジの名山で、5月中旬から5月下旬には50万本ものヤマツツジやレンゲツツジが全山を深紅に染め上げます。周囲の緑との対比も美しく、赤く染まった山頂は、遠く離れた平野部からも見えるほどです。

登山口は北と南の2カ所。北の気仙沼側登山口からまず、果てしなくツツジの赤が広がる「つつじが原」を見渡す第一展望台へ。さらに、第二展望台から眼下には、ツツジと太平洋の紺碧が織り成す雄大な風景が迫ってきます。その先は、人の背丈を越すほどのツツジを見上げながら、「つつじ街道」を通って山頂へ。

南の本吉側からの登山者は、まず登山口駐車場のそばに湧く清水「長命清水」でのどを潤し、二つのコースから道を選んで進みます。のんびり作業道コースは、広い作業道を利用したゆるやかな道。登山の雰囲気を楽しみたい人には、尾根道コースがお勧めです。両コースとも山を覆い尽くすツツジや太平洋の美しい展望を満喫しながら、歩くことができます。

気仙沼側、本吉側、どちらから登っても山頂までは40分ほど。山頂の手前に急なこう配がありますが、ゆっくりでいいので、ぜひとも頂まで挑戦してください。そこには360度ぐるりと見渡せる絶景が待っています。視界を遮る高木がないため、天気の良い日は、東にリアス式海岸が続く太平洋、大島、南に金華山、北東に五葉山、西に栗駒山、北に室根山、大森山を一望。また、自然保護を願い、登山者の労をねぎらおうと、樹齢1,000年以上のツツジを御神体とする石造りの徳仙丈山神社も建立されています。

昔、屋根葺きや農耕馬用の採草地だったことから、山焼きが行われ、その火防線は現在の登山道の一部となっています。山焼きや伐採など、多くの試練を耐え抜いたツツジ。その成長の陰には、本吉側の「徳仙丈山つつじ保存会」、気仙沼側の「徳仙丈の自然とつつじを守る会」とその意思を継いだ「徳仙丈のつつじを愛する会」の長年にわたる保護活動の尽力がありました。

気仙沼側には清らかなせせらぎの「徳仙奥入瀬」があり、大きな岩を抱いた「岩抱きけやぎ」をはじめ美しい風景が点在しています。徳仙丈山は毎年開花時期にはつつじまつりが開催され、ツツジを愛する地元の人々や観光客で大いににぎわいます。



ビューポイント 3
気仙沼側からのつつじ街道



ビューポイント 5
尾根道コースから見た山頂



つつじの王者

ビューポイント 6
のんびり作業道コース

本吉側からの徳仙丈山全景

散歩気分で山歩きを楽しもう！

徳仙丈山の魅力

標高711mの徳仙丈山の最大の魅力は、5月中旬から咲き誇るツツジの大群落を散歩気分です。数々の山野草が咲き、野鳥の宝庫でもある野山から「ウグイス」のさえずりが聞こえます。

初夏、蛙の鳴き声に似た「エゾハルゼミ」の大合唱が響き、トンボたちが飛び交い、山々が深緑に変わる頃には夏山トレッキングを楽しむ人々が訪れ、爽やかな空気と山頂からの絶景を楽しむことができます。また、気仙沼側にある「徳仙奥入瀬」では、森の中を流れる清流のせせらぎを耳にしながら、森林浴気分です。

秋には、山々の木々やツツジなどの紅葉も楽しめます。

豊かな自然の移り変わりを気軽に満喫できるのも徳仙丈山の魅力です。

ご来訪者のみなさまへ

- ※ツツジの見ごろを迎えた週末や休日は、車道や遊歩道などが混み合いますので、ご注意ください。
- ※軽登山になりますので、歩きやすいスニーカーや登山靴などでお出でください。
- ※登山道周辺には自動販売機がありません。水分補給用の飲料などを持参ください。
- ※トレッキングの装備(安全な服装、軽食、救急セットなど)で入山されることをおすすめします。
- ※トイレは大変混み合います。事前に「道の駅」などの利用をお願いします。



ツツジの見ごろ

毎年5月中旬から
5月下旬

※その年の天候などにより、開花日や花の咲き具合が異なります。あらかじめご了承ください。

ツツジの花

面積 約50^{ヘクタール}
東京ドーム約10個分

本数 約50万本

徳仙丈山ひとくちメモ

ツツジの名所になったワケ

徳仙丈山には大正初期から昭和25年まで銅を採掘した「徳仙鉱山」があり、火入れや山火事跡は萱や牧草地として利用されていた。現在の登山道の一部は「火防線」として明治に造られたもの。その後幾度も山火事や植林事業を経て、厳しい自然環境に耐え、山頂一帯が、「黒野牧(くろのぼく)」

という土がツツジの成長に適していたことなどから、自生のヤマツツジの大群落となったといわれている。昭和51年に気仙沼側の故・佐々木梅吉氏ら、同年に本吉側の故・須藤隆氏らにより撫育(ぶいく:愛情をこめて育てる)や保護事業が開始され、以後双方の住民による地道な活動によって、現在の徳仙丈山が日本屈指と呼ばれるまでのツツジの名所となったのです。



ビューポイント

2

第二展望台からの眺望

徳仙丈山散策マップ



徳仙丈山を守り、伝える。

「日本一のツツジの山」とも「日本最大級のツツジの群生地」とも言われる徳仙丈山。30数年ほど前はツツジの株も小さく地元でさえあまり注目されることはなかった。

昭和51年、当時の気仙沼市議 故・佐々木梅吉氏は、山に咲くツツジに魅了され仲間とともに下草やツツジに絡まるツタを刈る活動をしながら、「撫育管理」の必要性を訴えた。この作業により草木の陰になっていたツツジは大きく成長し鮮やかに山を彩るようになり、後に市も草刈りや歩道の整備などを行った。佐々木氏は有志による「徳仙丈の自然とつつじを守る会」を結成し、昭和53年に「第1回つつじ祭り」を主催、その意思は現在「徳仙丈のつつじを愛する会」に引き継がれ、つつじ祭りの開催や自然保護活動が行われている。

昭和51年、当時の本吉町議 故・須藤隆氏は「本町の貴重な財産であるつつじの保護」を議会に求め、ツツジの魅力と山の整備を町に訴えながら、自ら草を刈り、ツツジの生育に適した環境づくりを行った。昭和56年からツツジの保護活動が町の事業として開始され、昭和63年に「本吉町徳仙丈山つつじ保存会」を結成、平成元年に「第1回徳仙丈山つつじ祭り」を主催、現在までつつじ祭りや下草刈り、ツタ刈りなどの活動などを行っている。

二人の先人の熱い想いと、それに共感した地域の人々の地道な活動が市や町を動かしてきた歩みが、徳仙丈山のツツジが全国に名を馳せる礎になっている。



昭和56年 本吉町徳仙丈山つつじ保存会提供
平成14年 着工から22年目の同地点 (徳仙丈山つつじ保存会提供)
夏の下草刈りで、日当たりが良くなる。刈り取られた草木が腐葉土となりツツジの成長に最適 (徳仙丈山つつじ保存会提供)

東北ツリーハウス観光協会
www.tohokutreehouse.com

東北に100のツリーハウスをつくらう！を合い言葉に、新しい観光地づくりをすすめているプロジェクトです。

0号 トムの家 1号 デキタハウス

気仙沼側からの入山

駐車場は？
道路沿いに大型バス駐車場7台、普通車向けの駐車場が2ヶ所と森林文化センター駐車場に合計100台。つつじ祭り期間中は混み合うので注意。路上駐車は厳禁。

絶景ビューポイントは？
登山口から約15分の第1展望台から見た「つつじが原」、そこから約5分の第2展望台からの眺望がおすす。人の背丈より大きな株のツツジが群生する「つつじ街道」は圧巻。

おすすめコースや所要時間は？
ピクニック気分で散策することができ、広場や展望台などがあるので、お弁当やおやつ持参で休憩などもできる。山頂まではゆっくり歩いて約40分程度、山頂からの絶景は必見。



本吉側からの入山

駐車場は？
登山口付近に駐車場が3ヶ所80台駐車可能。つつじ祭り期間中は混み合うので注意。路上駐車は厳禁。

絶景ビューポイントは？
登山口から山頂まで続いてツツジが群生。尾根道コースの南北に開ける眺望と、ツツジに埋め尽くされる山頂風景は見逃せない。のんびり作業道コース南面に広がる群生地も見事。

おすすめコースや所要時間は？
のんびり作業道コースの勾配は、ゆるやかなので子どもからお年寄りまで歩きやすい。尾根道コースは急坂があり健脚向きだが、コースからの絶景をぜひ満喫して欲しい。

気仙沼側駐車場へ (北方面から)
国道45号から県道65号へ入り羽田神社を右に見て直進、未舗装の道路を過ぎ駐車場へ。蛇行道路もあるが大型バスの通行も可能。①の交差点から駐車場まで約30分。国道284号新月駅方向からは、道幅が狭く蛇行道路も多いがマイクロバスまで通行可。

本吉側駐車場へ (南方面から)
大型バスの通行は不可。普通車は国道45号②の交差点から国道346号へ入り、市役所支所交差点③を直進、集会所、浄水場を過ぎ左折、道路幅が狭いので通行に注意。②の交差点から約30分。